

教材名：葉っぱでおぼえる樹名板作製教材

教材作成者：東京都立城東職業能力開発センター江戸川校 稲田 陽介・岩瀬 真理

<作品の説明>

作品の概要	<p>当科は 15 名定員の 4 期入校で、修了生の多くは造園業界に就職しており、主に植栽の管理業務に就いている。就業後は、造園業の基礎として樹木の名前を覚える必要がある。そのため、入校 3 ヶ月目の基本実習では、造園技能検定 2 級の「判断等試験」にあたる、葉で樹木を見分ける課題に取り組んでいる。実際の試験で出題されるのは 15 問であるが、出題範囲が 115 種と多いため、葉の名前を覚えるのに苦慮している。そこで、授業では 1 日目に葉の用語解説や分類方法、基礎的な知識を学び、実際に樹木の名前を覚えた後、その日の最後に確認テストを行っている。2 日目は、校内に植栽されている樹木を各々 1 種類ずつ選び、1 日目に学んだ知識や専門用語等を用いて、「樹木調査シート」と「葉っぱ観察シート」の作成に取り組んでいる。作成したシートの内容をカーボン紙で板に転写する方法と、レーザー彫刻機で板に加工する方法の 2 通りで樹名板を作製している。作製した樹名板は、公道に面した植え込み地の樹木に取り付け、樹木の名前を覚える際に活用している。</p> <p>※樹木調査シート A4 ※葉っぱ観察シート A4 ※樹名板作製手順書その 1・その 2・番外編（葉っぱうつし）、A4 ※樹名板詳細図面 A4：樹名板サイズ（縦 100 mm×横 180 mm、厚み 20 mm） ※素材：ヒノキ材もしくはスギ材（多摩産材を使用）</p>
訓練における使用効果	<p>ひとつの樹木について深く掘り下げることで、物事を深く客観的・多角的にとらえる視点が養われる。また、新しい「気付き」を得られることで、発見と同時に知る喜びを感じながら学習意欲が高められる。これらの作業によって、自ら進んで学べることから知識の広がり期待できる。更に、葉の見分け方のポイントについて知ることで、他の樹種を覚える際にも活かすことができる。</p> <p>樹名板作製後は、ひとり一人調べた樹木について発表する時間を設けている。「葉っぱ博士」としてクラスの仲間に樹木を紹介することで、知識技能の定着が促される。また他の訓練生が発表した内容を聞くことで、興味関心の幅が広がり相乗効果も期待できる。</p>
作品の概要、 創意工夫の範囲、 参考文献	<ul style="list-style-type: none">・ 樹木を知るために必要な情報を精査し、板の大きさ厚みを決めて製材加工を行った。・ 多摩産材を活用した教材を普及させることも考慮し、素材選びを行った。（スギ・ヒノキ）・ 手描きによる葉のスケッチや文字の転写をカーボン紙で行い、親しみやすい樹名板に仕上げた。・ 葉のスケッチを入れることで、葉がない時期でもイメージできるようにした。・ 葉を描くのが苦手な人のために、葉っぱうつしで作製できる方法も取り入れた。・ レーザー彫刻機による加工を取り入れ、個人の技量による仕上がりの品質を平準化した。・ 裏面に記載する内容は、字数制限を設けて、よりシンプルに分かりやすさを追求した。・ 樹木調査の内容をひとり一人発表してもらい、伝える喜び聞く楽しみを得る機会とした。・ 五感をフル活用することで、飽きさせず学べるよう工夫した。・ 樹名板を学校関係者及び近隣住民の目に触れる場所に設置することで、科目の取り組みや訓練校としての事業活動を広く周囲に発信することができた。（効果的な情報発信）・ 訓練生に対しては個人作品の製作という枠を超え、製品としての仕上がりを意識するよう促し、精度を高めるよう働きかけた。